メディア掲載：毎日新聞『聞いて！』

地域ダネ

より良い遺品整理めざし

聞いて！

故人の家財道具の片付けに悩む人が増えている。専門業者もあるようだが、どう利用したらよいのだろう。「遺品整理」に関して情報発信している一般社団法人「心結」（兵庫県伊丹市）の代表理事、屋宜明彦さん(41)は「トラブルを防ぐため、業者選びは慎重に。元気なうちに、自分で整理しておくことも大切です」と呼び掛ける。【まとめ・小柳津早霧】

一般社団法人「心結」

生前整理や遺品整理についての相談に応じる「心結」代表理事の屋宜明彦さん＝兵庫県伊丹市で

約20年前から、廃棄物処理の世界に身を置き、遺品整理の仕事に携わってきました。2016年には独立して遺品整理・生前整理の専門会社「スリーマインド」（同）を設立し、同時に「心結」の活動も始めました。

「心結」では、全国で遺品整理サービスを提供する仲間と一緒に、この業界の健全化と社会的地位の確立を目指して活動しています。メンバーは「家じまいアドバイザー」という肩書きを名乗り、丁寧で配慮ある作業を心掛けています。

■心の溝を埋める

私はこの仕事にやりがいを感じています。11年に神戸市内のマンションで高齢男性の遺品整理をした経験が、この思いを強くしました。不仲だった父親の遺品を前に、息子さんは「全部いらん、捨てて」と言っていました。ところが、押し入れの奥から、子ども時代の思い出の品である剣道の防具が出てきたことで態度が変わったのです。親子の〝心の溝〟を埋めるお手伝いができました。

こんな現場ばかりではありませんが、お客さんに安心・信頼してもらえる業界にするべきだと思っています。というのも、この業界がまだまだ未成熟だからです。

監督官庁がなく、許可も必要ありません。誰でも始められるので、新規参入が相次いでいます。業者ごとにサービス内容や料金が異なり、「金品を持ち逃げされた」「ごみを不法投棄された」などのトラブルが起きているのも事実です。

遺品整理という言葉も、正式な定義があるわけではありません。私たちは「亡くなった方の最後の部屋（家）の片付け。遺族に寄り添って、片付けのお手伝いをすること」だと思っています。

実際の作業の中心は、部屋の中でお客さんの意向を聞いて、家財道具の整理仕分けをすることです。必要な物、売る物、不要な物に分け、不要な物は市町村のルールに従い、地元の一般廃棄物処理業者に引き取りに来てもらいます。まだ使える家具などは、海外リユースする仕組みを作っています。

作業の最後には、掃除もします。いわば、家を空っぽにするお手伝いですね。私たちは、これらの作業を1～2日で終えます。

■終活セミナーも

「心結」では、終活セミナーなども広く行い、私が講師として遺品整理の現場での話などをしています。受講されるのは、50～90歳代。70歳代が多いです。20年に著名人が新型コロナウイルス感染症で亡くなったニュースが出てからは、「生前整理をやりたい」という相談が増えました。

生前整理も、することは遺品整理と同じです。物の整理だけでなく、情報やお金の整理も必要なことをお伝えしています。スマートフォンのパスワードなど、遺品整理の現場で困っている事例をたくさん見てきました。

私たちには、介護や葬儀、相続などの専門家との連携があります。「心結」は、一般の方が終活で困ったことがあったとき、気軽に相談してもらえる受け皿になるのが目標です。

遺品整理について紹介した無料ガイドブック

無料ガイドブックを配布

兵庫の「スリーマインド」

「心結」代表理事の屋宜明彦さんが営む遺品整理・生前整理の専門会社「スリーマインド」（兵庫県伊丹市）が、無料冊子「お役立ちガイドブック　はじめての遺品整理」（A4判、14ページ）を作成した。10月から配布している。家族で行うか、業者に頼むかの判断ができるよう、事例を紹介しながら説明している。問い合わせは、同社ホームページ（https://3mind.jp/guidebook/）から。

◇一般社団法人「心結」◇

遺品整理に関する悩みの解決を目指して設立。家じまい（遺品整理、生前整理）の相談を受け付け、業者の選び方などを助言、講演活動をする。兵庫県伊丹市荻野3。電話0120・976・700。ホームページ（https://shin-yuu.jp/）もある。

屋宜明彦(やぎあきひこ)　1979年生まれ
株式会社スリーマインド　代表取締役
一般社団法人心結(しんゆう)代表理事
一般社団法人相続手続カウンセラー協会　理事

遺品整理のガイドブック
資料請求はこちらから

家じまい(遺品整理・生前整理)のご相談はお気軽に
スリーマインド：０１２０－９６７－０２２